

—— sUmさんが大判カメラに触ったのは、Aboxに来てからですか？

Aboxに参加以前は中判カメラで撮影をしていましたね。大判カメラに触れたのは、粕谷千春さんが中央植物園で大判カメラで作品を撮っていたお手伝いをしていた時が初めてです。まず見た目で惹かれましたね、大判カメラっていいなって。撮影しているのを手伝いながら、高崎先生や奥沢くんが操作方法を粕谷さんに教えているのを聞いて知識を吸収してました。それから、大判カメラを貸して頂けることになって、大判カメラで撮影するようになりましたね。

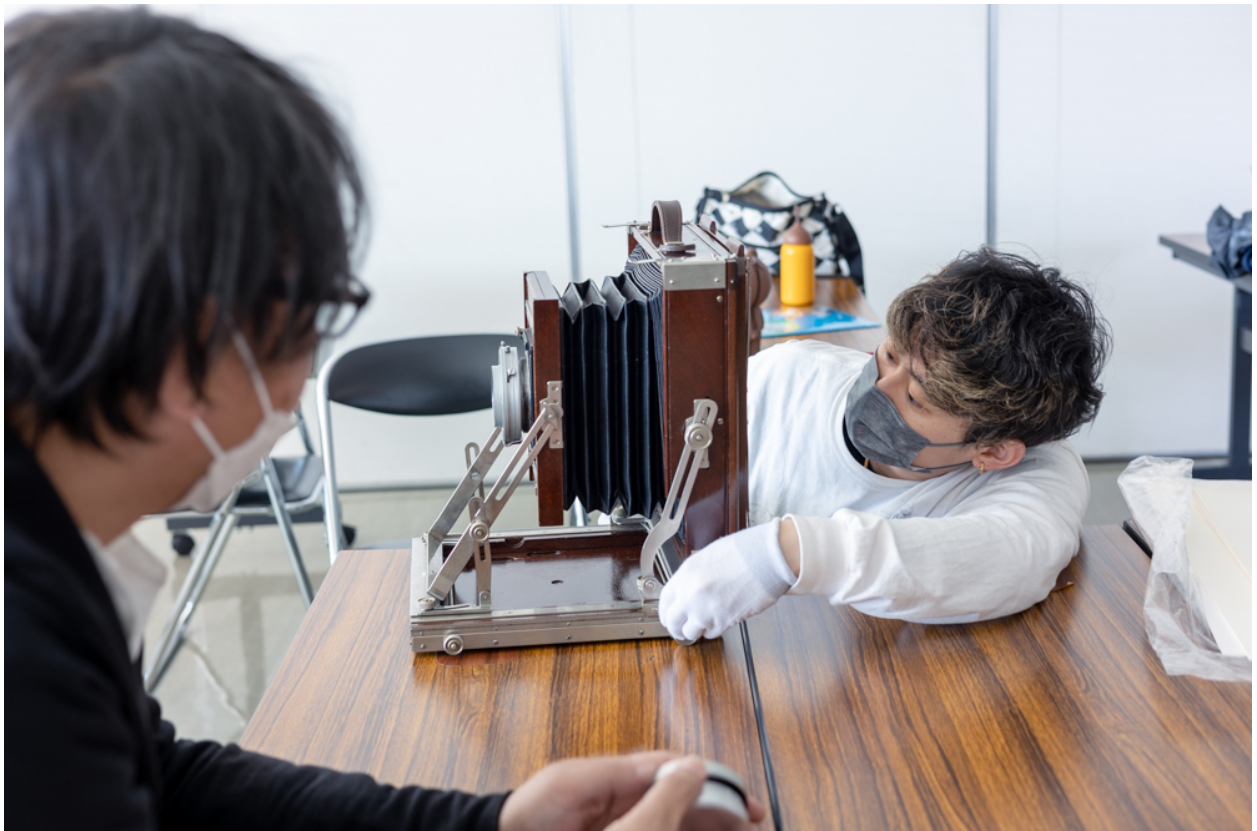
Aboxから大判カメラを借りていたんですが、実は個展で得たお金で大判カメラを買ったんですよ。どうしようか迷っていたんですけど、「やっぱり買おう！」って決めたんです。座右の銘でもないですけど、「人生は一度きり」。明日の事は、どうなるか分からないじゃないですか。もしかしたら、今日何かあるのかもしれない。何ヶ月も写真を撮れない状況になるのかもしれない。後悔する事があるかもしれない。そう考えているくらいなら、迷わず買いますね。やるなら早い方がいい。

——大判カメラと出会って、人生変わりました？

めちゃくちゃ変わりました。最初は写真に綺麗さを求めていなかったんです。けど、大判カメラで撮影したものを見たら解像度が綺麗なんですよ。今回Abox展に展示した作品は小全紙に刷っているんですけど、あのサイズにしても綺麗に焼けるので、まだまだサイズを大きくしても綺麗なんだろうなって思うと大判カメラって凄いですよね。

大判カメラを触り始めて慣れてくると、カメラの仕組みについて分かって来るじゃないですか。何をどう、操作すれば思っている写真が撮れるのか、これだとあおり過ぎなのかとか。自分の性格上、全部自分でやりたいんです。そして突き詰めて撮った作品を褒められたいんですよ（笑）。

大判カメラとか格好いい道具が好きなんですよ。だから、大判カメラが好きになれた。自分が選ぶ道具は使いやすさよりも、格好良さ。多少扱いが難しくても自分が好きな道具を使っていきたいですね。



塾長の大判カメラを手にした彼は、少年のように楽しそうだった。